

# 南宇和高等学校学生寮建設説明会を行いました



## 説明会の概要



令和8年4月13日(月)  
19:00から



御荘文化センター  
2階 大研修室



会場には、102人の  
住民が出席しました。

町からの説明の後、  
質疑応答を行いました。

## 建設の目的

町内唯一の高校である南宇和高校の存続は、愛南町にとって将来的な大きな地域課題となっています。南宇和高校では将来的な学校の存続に向け、令和8年度から生徒の全国募集を行います。このため、町外から入学する生徒の居住環境の整備が必要となっていることから、愛南町が学生寮を建設し、受入体制を整えて県外生徒の獲得を図ることを目的とします。

## 学生寮建設案の概要

### (1) 建設場所

御荘平城3210番地1他(旧消防署跡地)

### (2) 用地面積

1,492.3㎡

### (3) 寮の定員

20人

### (4) 建設方法

新築(移動式木造住宅)

### (5) 寮の概要

管理棟:1棟 宿舍棟:2棟(男女各1棟)

※御荘湾の最高津波水位予想は8mとなっていますが、当該地の海拔は8mで、建物基礎高さは50cmあります。



▲建設予定地

## 運営費の見込み

維持管理に係る経費(県外生徒10人を想定)については、令和9年度は23,100千円の支出に対し、年間17,544千円の収入と、4,300千円の直接経済効果を見込んでいます。

## 予算計上額および財源

- (1) 設計監理委託料 17,380,000円(税込)
- (2) 工事費 346,500,000円(税込)
- (3) 財源 地域未来交付金(補助率1/2)、地域活性化基金

## 高校の消滅が意味するもの

(人口流失・地域衰退の引き金!)

- 教育進路への影響
- 若者流失と人口減少の加速
- 地域経済への影響
- 地域コミュニティの弱体化
- 町の存続そのものへの影響



## なぜ、学生寮が必要なのか？

- 1 県外生徒が安心して生活できる環境整備
- 2 県外生徒、保護者へのアピール力
- 3 持続可能な受け入れ態勢の整備

そもそも、寮を整備しないと生徒が来ないという現実!

【当日説明資料から抜粋】

Q

1/2の補助額があっても、1.8億円の町負担は大きすぎるのではないのでしょうか。産業支援や住民サービスを優先すべきでは？

A

財政は持続可能性を前提に計画しており、耐用年数を考慮すると建設時の負担は限定的です。保育・教育をはじめ、さまざまな分野に大きな金額を投入している中、高校の存在価値を踏まえれば予算を投入する価値はあります。

Q

定員を20人にした根拠は？

A

ほかの自治体を参考にしました。まずは低コストで始めようと男女10人ずつのスタートにしました。生徒が増えれば、移動式木造住宅の特性を生かしたスピーディーな増築が可能です。

Q

全国募集の中で南宇和高校の強みは？

A

豊かな自然を生かした地域体験型教育（ダイビング・釣り等）の実践、農林水産業等の地域活動との連携が密であること、「自分の可能性を見つける場」をコンセプトとして多様な経験がてきる教育環境があることです。

Q

浸水想定について、50cm高いというだけでは不十分ではないでしょうか？他の安全な場所の検討は？

A

他候補地も検討しましたが、交流活動や防犯の面など総合的に検討し判断しました。

Q

県外生だけでなく町内や近隣市町も対象ですか？

A

対象です。

Q

なぜこれまで説明会がなかったのですか？

A

まず議会に諮り進めていくことが基本です。今回は、議会の要請や住民からの意見を受け開催しましたが、今後も案件に応じて説明方法を調整したいと考えます。

Q

高校の統廃合はすぐではないため、もう1年待つて時間をかけた方が良いのでは？

A

生徒減=教員減=教育の質の低下であり、現在の教育環境を維持できなくなる可能性があるため、早急に取り組んでいく必要があると考えています。

